向陽新聞
高知市春野町97
土佐中・高校新聞部
編集人　大野　令子
発行人　森岡　謙輔
印刷　高知印刷

高橋寫眞館
高知市京町北通
TEL ②6758

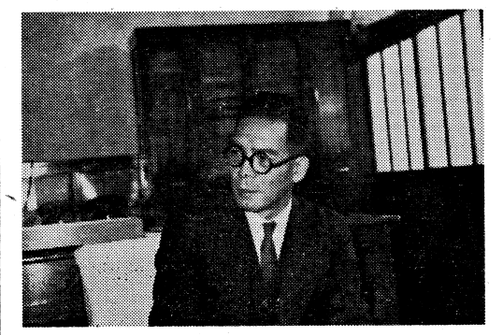
明るい学園建設に努力

新校長に抱負を聞く

クラブ活動を活発に
本校は予備校ではない

新校長がはじめて千八百名の生徒を前に就任の挨拶をされて約四カ月。本校もようやく落ちつきをとりもどし、校長を中心に新しい時代を形成する段階に入っている。校長と生徒とが協力してゆくために、生徒はまず校長の考えをきゝたい。

新校長が、本校のありかたを今までの予備校的存在からはなして人間形成の一過程としてみているのは確かで、校内全員の親和をのぞんでいる。校長はこの〃親和〃を達成するにどのような考えを持っているのだろうか？



○…土佐中、高は予備校ではない。生徒、先生のすべてが、親友となって、よりよい学校を作り上げてゆく―これが私の最大の夢である。

○…私は諸君にもっとクラブ活動を活発にやれ、と言いたい。本校の生徒は点数にこだわりすぎている。点取り虫が多い。だから外部からは〃予備校〃と悪口をいわれる。点数をとることが人生の目的ではない。大学でさえも目的ではない。手段にすぎないのだ。だからクラブ活動で得られるものがあったら、点が少しぐらい下がってもいゝのではないか？、長い人生では学生時代のクラブ活動での体験が大いに役に立つだろう。もちろん学生の本分は勉学にあるから、部所属者であまり成績のかんばしくないものについては、部に入ることをやめさせることもある。しかし学生生活は、もっと幅広いものでなくてはならない。

○…いったいに、本校の生徒は現想が高すぎる。皆が東大や京大などだけにあこがれるのは不思議だ。その人の学力にあったところを選べばよいのだ。私はクラブ活動を活発にすることを奨励したが、スポーツと学問とを両立させることはむつかしいことだと思っている。スポーツだから試合もあるし、勝たなければいけないが、しかしそれよりも私はみんなが楽しくスポーツをすることを望む。

○…次に生徒の不良化問題であるが、もちろん暴力行為は許してはおけない。しかし現在私は暴力行為については何も聞かないが、諸君は聞くだろうか？、盗難が多くあるようだが、私は暴力よりもなによりも盗難が多いことを悲しく思う。まったく卑劣なことだ。こういうことがあるとは青年の死滅だ。盗難などもってのほか。そういうことがおこらないよう、諸君の良心をうながすとともに、諸君は互いに協力して未然に防がなくてはいけない。

○…長髪は少しも目ざわりにならない。前校長が長髪を禁止したのは、よくよくのことだろうが、長髪を不良化と結びつけるのはまったくおかしな話。私は長髪の学生をみても、不良などとは全然思いもしない。

〃親和達成のために〃

○…ホームルームについては、現在のところはっきりした考えは持っていないが、その時間割の組み方は考えてみる必要がある。六時間目にしないでもっと早い時間にしてもよいだろう。また全部のクラスがいっしょの時間だと不便だろうから、違う時間割をくんでもよい。

○…遠足を年に二回することを考えている。春は現在のままでよいとしても、秋にもう一度行く。そしてその時はなるだけ近い場所を選び、そこで遊ぶ時間を多くしようと思う。現在行なわれているような遠足では親和などとうていい考えられない。

○…学校の雰囲気を明るくする。高崎先生に頼んで廊下の壁に絵をかけてもらった。校長室の壁にかかっている本年度重点目標は取り除き、新たに絵をかけた。重点目標をかゝげて効果があればそれにしたことはないが、実際のところ効果はないのではないか？各教室にあるのもはずしてよろしいが、はずす時は一応主任の先生に相談してはずすように。代りに絵やその他何でもいゝからクラスの雰囲気を楽しくしてゆくものをかけた方がよい。なるだけ学校を明るくしてゆきたい。

難航の末の新四役
流会對策に小委員会

高校生徒委員会では、新学期早々新生徒委員の互選により、新四役を決定した。

一月八日の新メンバーを集めて開かれた委員会では、委員長に、推薦、辞退が続いた結果、安岡英一君（一H）が、副委員長には中屋耿爾君（一K）進行係は対立候補なく、満場一致で竹内一郎君（一T）に決まったが、書記決定は難航し、土井晶子さん（一K）が推薦され、辞退を続けたが、推薦者が撤回せず、一応決定したかに見えたが、土井さんは翌日も、不適任として辞意を示し、紛糾の末辞意を認められ、代って上杉典子さん（二O）が選ばれた。

新四役が決定した高校生徒委員会では、さっそく、今までしばしば問題となっていた流会の対策として生徒小委員会を設置した。

この規約改正は、従来、決定事項はすべて全生徒委員を集めていたため、委員が集まりにくくしばしば流会となっていたのを、小人数で迅速に行なおうというもの。その機構は、各クラスから生徒委員の代表一名計十名と、四役の十四名から成っている。現在は予餞会小委員会として効果を上げている。

頓座した中学生徒会

好調なすべり出しを見せた中学生徒会は、現在のところ頓座したかっこうである。これについて中学生徒会長の加藤君は、「今学年は、クラスマッチ、校長胸像の件、運動会、水泳大会など恒例の行事ではあるにしろ例年になく順調にできたし、またその間、高校委員会ともかなりの会合をもって、その方の働きもできたので、自分では一応その仕事を果たしたように思う。たゞ十月解散するはずであったのが、準備がいつもより早かったため、その時機を失なって、自然二期制の形になったことは、特に一年の諸君に対してすまなく思っているまた今学期中に改選を行うつもりだ」と語った。

主張
個性の伸長が大切
思いきった改革を

新校長が就任されて四ヵ月たち、大体そのアウトラインが明らかになった。就任早々受けた印象は、明朗で若々しい性格の持ち主という感じだったが、期待に違わずはやくも校内が前校長の時代よりはるかに明朗化されている。これまでは始業式の校長挨拶は大半が大学入試と本校の名誉保持にたいする訓戒であり、その時間も長く半時間以上の長きにわたったが、新校長になってからは、ほとんど五分以内に止められ、話の内容も新しいものが含まれるようになった。『生徒と一緒に良く遊ぶ』ことを強調され、三学期の始業式には、バトミントンが各教室に配られたのは嬉しい驚きであった。校長は次に卓球を計画しているようだが、この運動範囲をさらに広げ、三月のグラウンド完成を契機に、誰でも思い思い自由に手足を伸ばせるように、現在のグラウンドを一般生徒のために解放してほしい。

それと共に新しいグラウンドで、十分運動できるよう、クラブ活動も平均に成長するよう心がけ、生徒のクラブ活動入部もぜひ奨励してほしい。クラブ活動によって学生間の親和はおのずと達成されよう。その際、運動部は故意に本校の力を誇示する宣伝物ではない様にしたい。

従来は、本年度重点目標の一つに「学習態度の強化確立」がかかげられ、常に一流大学を目標にして〃程度の高い〃授業が行なわれた。そのために内外に、本校を一流大学入学者数で決めるようなことが行なわれ、玄関には麗々しく一流大学入学者のみの名が、かかげられたこともあった。激しい大学入試地獄ではホームルームはもっての外と思われたのか、唯一の「楽しい機会」も、お坐なりであった。個性伸長と人間形成など、大学入試に出ない学問はかえり見られず、ため取り〃が多く、最悪の場合には、多数の〃本校にいる必要のない者〃を出した。大学入試も大切であるから、最善を尽すべきであるが、それだからといって、他の者はかえり見られないというのは非常に危険だ。今から、しっかりと、社会行動の基礎をつちかう教育を行なってほしい。

個性の伸長は、本校再建の急務である。文化部活動を発表する機会を設けて、文化部、運動部の学園祭を一年に一回設け、展覧会、劇、運動会、その他を行ないたいものだ。ホーム・ルームも、運動場のせまずぎる現状では、時間を別々にして、各ホームが、ゆっくりと楽しめるよう、また先生も必ず出席できるように計画してほしい。

こうして形造られて行く学園は、他の学校と比較しても決して劣るようにならず、独特の雰囲気をかもし出し、社会の中に入っても「人材」として、恥かしくない人間になるだろう。

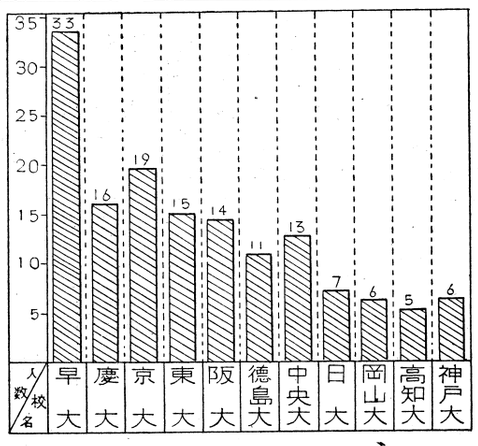
前校長がなくなられて一つの展開が始まっている。校長はこの新鮮な時期に、生徒の心を強くとらえて、率先し、思いきった改革をどしどし行なってもらいたいものだ。どうかすると前校長に気がねをし過ぎる様に思われるが、長髪禁止令や本年度重点目標など、問題のあったものの処理はすみやかに行なってほしい。前校長は動揺の最中にあって土佐中学を復興された、草味の治の偉人である。前校長によって、物質的な外面の土佐高は完成された。今我々に必要なのは、この土佐高を精神的に発展させる指導者である。前校長の思いのとどかなかったところや、中途で座折したところは、遠慮なく改めて行ってほしい。積極的に改革をおし進めなければ、一応新鮮になった空気が再び固着してしまうかもしれないのだ。

× × × × ×

ぐっとふえた理科系
進学状況まとまる

高三生の志望調査の結果がこのほどまとまった。それによると、三百二名中進学希望者二百五十九名（八十六％）、就職希望者三十名、未決定者十三名となっている。進学希望者の傾向を調べてみると、国立大学百八名、公立大学十三名、私立大学百三十八名となっていて、昨年同様に国、公立志望者は少ない。学校別にみると、やはり早大のトップは変らず、東大、京大など大きな変動は見られない。神戸大、東北大、高知大などは昨年に続いてさらに減少している。増加しているのは慶応大の四倍、岡山大、日大などである。

今年の進学志望者の特徴を調べると、昨年は文科系が圧倒的な多数を占めていたのに反して、理科系の好就職状況が反映したためか理科系百二十三名、文科系百九名と逆に理科系が非常な増加を見せている。また美術大学、体育大学系統の志望者も増加している。それに、国、公立大学志望者は理科系が圧倒的なのに対して、私立大学志望者は文科系志望が多いのも一つの面白い特徴である。



高三生徒の進学志望調査

校長から三十册
深瀬先生からも

曽我部校長先生は、今度図書館に本三十册を寄贈された。主に物理学、力学関係のものが中心である。

次に主な本をあげてみると、

「理化学辞典」　石原　純著
「力　学」　庄司英六著
「理論物理学」　石原　純著
「力学通論」　宇野利雄著
「自転車の科学」　野添　域著
「物理学通論」　東京物理学校編
「高等物理学上・下」竹内　潔著
「理論物理学講話」　湯川秀樹著
「アインシュタイン伝」　桑本或雄著
「物理学入試問題解答」　樫田恒一他編
他二十二册

また、本校において九千九百九十九回目の講演を行った深瀬薫先生からは、御自身の著作による「舌くりげ一万回」が送られた。

ひとこと

○…「土佐高生には意欲が足りない。授業を参観しても、先生と生徒間の、打てば響くようなやりとりがない」とは、ある父兄の弁だが、考えてみなければならない問題である。

中一、二の頃は、「ホイ、これはどうじゃ。」と問われれば、頭が答をめぐってキリキリ回転するように感じたものだ。そうでないまでも、せいいっぱい考えようとした。そして「そうじゃ。」と答で机の上でもポンと叩かれゝば、ドキドキするような嬉しさがこみ上げてきたものだ。

○…だが高一、二ともなれば、質問する先生を、たゞボカーンと見つめ続けている者が多くなる。念を押す先生の「そうじゃネエ。違いますか。違う人？」の言葉も教室の空虚さに吸いこまれていくようだ。しかしまた「違います。答は知っているのです。たゞ発表して注目されるのがイヤなのです」と言う人もある。これらの人達は、先生の質問にいち早く答え、先生方に良く出来る子と認められることに、一種の気恥ずかしさを感じて遠慮してしまうのだ。これは一種の逃避であり、無気力であるあるいは青年期の反抗の一つであるかも知れない。本校のような競争の激しい学校ではいっそう自主的に努力しなければならないのに、かえっていじけた消極的な気風を作ってしまった。勉強は決してそんなものではない。教師と生徒が学問に対するひたむきな情熱で結ばれ、教室はピンと張り切った空気で満たされる。このような時にこそ、学ぶ者の喜びが身にせまるのだ。「あなたの言う通り、私の聞く通り」式の学習は百害あって一利なしである。

○…いよいよ三学期も半ばとなった。高三は入試に、就職試験に、高二以下はあとを守って立派な結果を残さなければならない。この三十三年度の学習態度を深く反省し、張り切った気持で三十四年度を迎えよう。眠い重苦しい講義には、ときどき冗談も織り交ぜて、毎時間意欲的な学習をしよう。

（M・H）

打っても響かない

○…私は諸君になるだけ多く、話し合いの場をつくってもらいたい。思想や時事問題について、いやベストセラーや映画スターの話でも結構。あらゆる機会に話しあってこそ、お互いの親和が達成されるのだ。

（写真は曾我部校長）

皆の掛橋・バトミントン
次は卓球セット

始業式の日「お年玉としてバトミントンをあげます。勉強の余暇には、おおいにやって下さい」といって、校長先生は各クラスに一対のバトミントンをプレゼントした。

休み時間、放課後と、なかなかのにぎわいで、せまい中庭はいっぱい。大半が中学生で、高校生は少ないようである。なかには、男生徒の中に二割程の女生徒も交っての奮戦は見ている者をほほえましくする。また、ワイシャツ姿で、凛々しい木内先生の奮戦も美しい一コマである。中一Bホームなどでは、掃除グループが、当番の日ごとに利用しあっている。授業以外に接触する機会が少ない先生、友達間の〃親和〃をはかるし、またクラブ参加が負担の者にとっても手頃だとしているものもある。

校長先生談　勉強の息抜きにと思って買った。ネットも三つ買ってあるからクラス対抗をしてもおもしろいだろう。今度は卓球だ。ひとつおおいにやってほしい。

高三Sさんの話　非常にうれしい。校長先生が、私達にとけこもうとしている努力がうかがえる。私としては、もう少しはやくいただきたかった。

高一Tさんの話　校長先生の趣旨はわかるが、他校はともかく、土佐高としての学習態度を確立してからの問題ではないだろうか。まだ、ちょっと早いという気がしますが……。

中三Yさんの話　せっかくいただいたのであるから、もっとみんなが積極的にやったらよい。そしたら立派な学問と、スポーツの両立だと思う。

中一Yさんの話　校長先生がやさしかって、大変うれしかった。学校がなんだか明るくなった様に感じます。

化学部が出席
理科研究発表会

第八回高知県高等学校理科教育研究発表会は、一月十七日午前九時半より文教協会で十五校が出席して行われた。

本校からは、物理部、化学部、生物部が出席し、化学部の栗原道子中田紀子さん（二K）が「毛系の染かえに関する研究」について発表した。「毛系の染かえに関する研究」というのは毛系を染める場合、どうすればその結果がよい成果をあげることが出来るかが目的であって、基礎的な研究である。この発表会には、生物部門の発表が半分以上を示していた。

山下先生談　このように、まじめに、こつこつと研究している生徒がいるので将来がたのもしい。

十六日に卒業式

三十三年度の卒業式が、二月十六日午前十時より挙行される。今回の卒業生は三百一名で、そのうち女子は六十二名となっている。また、開校以来三十四回目の卒業生である。

女子は金融が中心
十五人の就職決定

本年度の就職希望者は、三十名で例年とかわらず、卒業生の十パーセントをしめている。そのうち、男子は八名で例年より少なく、女子は二十二名。今まで確定したものは、男子七名、女子八名で、そのうちわけをみると、男子は日本セメント・高知相互・公務員初級合格など。女子は四国銀行・大和証券・農林中金・野村証券・十電会館で金融関係が中心である。就職率は例年にくらべて悪いがこの理由として、玉真先生は、「大口会社の募集人員が今年は少なく、また、最近技術方面を重視する傾向があるためだ」といっているが、ほかにも、よい所ばかり選び、一流会社以外には就職しないと考えている人が多いこと、また〃絶対に就職しなければ〃という真剣さに欠けていることが、この度の不振の原因のようだ。

入学金二万円以上

本校では二月一日から高校入学志願者の願書を受け付けを始めた。本年の中学、高校の入学試験は例年とほとんど同じで次のようになっている。

中学　出願　三月一日―十五日
　　試験　三月二十六、七日
高校　出願　二月一日―十七日

なお、入学時の納入金は二万円以上になっている。

安芸高事件を探る
注目の的を訪ねて

校門をくぐってまず目についたのが、廊下の掲示板。〃高岡高生徒会有志〃との署名で「頑張れ」「だまされるな」などと、布に大書されている。各地の高校生、はては中学生からの激励文まであって、〃安芸高事件〃のまきおこした波紋の大きさがしのばれる。

愛情を欠いだ非行生処分問題、校内民主化運動にはじまって山本前校長の退陣要求にまで発展し、さらに勤評問題からんで、生徒八百人がバスを連ねて、県教委におしかけたというのが、いわゆる〃安芸高事件〃のあらましだが、「校長と生徒との遊離」「勤評問題とそれをもとする先生間の対立」が問題になっているようだ。

山本前校長は「今は微妙な立場にあるので」と事件については何も語らないが、生徒との間のミゾはよほど深かったと見え、校長がいつ登校して、いつ下校するか生徒は知らなかったし、むろん話し合うなどということはなかったという。見なれぬ男が廊下をうろついているのを見て、生徒がとがめたら校長だったというような話がある。校長自身も「安芸のようなイナカへ来て、電車賃だけでも損だ」ともらしたといわれるほどだから、不幸にも「師と教え子」の関係はどこかへすっとんでいたといえるだろう。

この事件には異なった勤評観をもつ独教と県教組との対立が、いわゆる〃安芸高事件〃のあらまからまって、事件をますます複雑にしている。同校生徒会が学校側に出した〃民主化の要望書〃の中にも「両派の先生は対立を教室にまで持ちこまないでほしい」とうったえている。

〃煽動ではない〃
とりもどした明るさ

ただ、ある女生徒は「そういうこともあります」という表現で答えてくれた。「煽動というのは当っていないが、一部の先生は同調した」というのが真相に近いようだ。

高校生の集団交渉については各方面の非難が激しかったが、生徒の間にも反省の空気が強く、記者の質問に対しても一様に「良くなかったと思う」との答えだった。前生徒会長は世間では交渉場面だけをさして、私たちの態度をなじるが、なぜあれほどまでしなければならなかったかを考えてから判断してもらいたい」とうったえている。

三学期に入ってからは、生徒の意見がとりあげられた形で、新校長が赴任し、民主化の要望も認められた。就職難も一部に伝えられるほど深刻ではなく、遅れを取り戻そうと身の入った授業が始められており、教室にはようやく明るさがよみがえったところである。（T・K）

だ」とかたづける向きも多いが、同校の小松先生（日教組）は「そんなことは絶対に無い。煽動だけで八百人という人数を動かせるわけがない」と語り、当時の生徒会長横山君は「民主化について生徒と話し合ってもくれず、場所によって言うことがく違うような、校長の不誠意さが生徒の怒りを招いたもので、まったく僕たちだけの意志によるものだ」と言っている。

〃梅一輪〃

〃梅一輪程の暖さ〃と歌われているように、大寒も過ぎると、処々には香りゆかしい白梅が可憐な花をつけ始めた。梅が一輪、また一輪と花を開くたびに、少しづつこれから暖くなるだろう。それと共に、入試も就職もいよいよ大詰に迫って来た。「力を尽して狭き門より入れ。滅に到る門は大きく、その路は広く、之より入る者多し。生命に到る門は狭く、その路は細く、之を見出す者少し」これはアンドレー・ジイドの「狭き門」に聖書から引用された章である▼随分ワケは違うが、ここ数年来、文字通りの「狭き門」が大繁盛。試験地獄、就職難、果は住宅難、結婚難迄の「狭き門」が飛び出す仕末。これではさぞかし聖書の句が困っていることだろう。差し当って我々に関係があるのは、試験地獄と就職難。就職は社会の景気、不景気が直接響くのだから、去年の鍋底景気等の年に行き当った者は全く不運である。「どんなに条件の悪い時でも実力者は勝つんだ」と言えば、それ迄だが、やはり国家全体、社会全体が豊かになって、安定してもらわねばならぬ▼次に試験だが、これも随分惨めな有様だ。或る雑誌にも「日本の恥部、試験地獄」と大々的に扱われていたが、今や社会問題化していると言っても過言ではなかろう。しかし我々は現在、そんな事を色々議論してみたところで、どうにもならぬ。我々に出来る事は、努力の上にも努力、真の意味での「狭き門」に力を尽して入る事のみである。その「狭き門」を土佐高生一同が手を取り合って捜そうではないか。ここに一受験者の力強い手記がある。これを卒業生への餞とし、在校生もこれを一つの励としようではないか▼長い人生航路の行程には、まだまだ幾多の関門が横たわっている。そして、その試練に堪えてこそ、美しくもたくましくも成長していくのではないか。若人らしく、雄々しく、数々の知識に向って、怒濤の如く青春の力を費すのだ。その目的地への道程こそ、よりよき人間形成への歩みではないか。

（T・H）

珈琲の店
一　柳
京町 大丸前　TEL ② 2494

参考書・専門書の御用命は
金高堂書店
TEL ② 8285 8286
土電会館書籍部
TEL ②代0111

机・本箱・椅子
ことぶきや家具店
オビヤ町中の橋通り西側　TEL ② 2771

イリキ眼鏡店
播磨屋町　TEL ② 0998

日本毛織 リファインテックス 専売店
高級服地を進学進級に
毛織なら絶対折目はのきません
株式会社 丸賀洋服店
（信用を重んじて営業する店 服だけは信用ある店で）
高知市京町31
TEL ②3370

学生々活の記録はカメラで
現像・焼付・引伸・スピード仕上（6時間）
カメラはキタムラ
堺町19　TEL ②3154～6

制服は
信用ある指定店で
別誂服・既製服
高知学服
入交
中ノ橋電停前　TEL ② 2744

敷地は六千坪に増加
一般使用は現運動場

本校創立四十周年記念事業の一環として、潮江地区に新設されている総合グラウンドは、埋立も予定通り進んでいるが、昨年九月に買収した土地四千八百坪では敷地が少し狭いため新地を交渉中で、現在千二百坪余の契約がまとまった。これで敷地は約六千坪となり、二月末から三月始に完成の予定で、体育の授業と、運動部の練習に利用されることになっている。

グランド三月に完成

本校の運動場は、少し雨が降ってもすぐ水がたまり二、三日便用できなくなる状態である。しかし新殿運動場はシンダーという埋立方法を取り入れて、雨が降ると周囲に流れ出たり浸透してすぐ乾くようになる。

これで土地購入費九百万円、埋立費八百九十万円、運動場の周囲に高さ一メートル八〇センチのアングルを立て、カナアミをはる費用が百五十万円、合計千九百四十万円かかる上に殿備費が加わるため、費用の総額はまだ確定していない。この費用は生徒、職員より毎月二百円徴収している分約一千二百万円、今年より三年の間新入生一人当り九千円寄付金として徴収する分八百万円、私学振興会からの融資金、同窓会からの寄付金を当てるが、殿備費は非常に高額となるので、少しずつ殿備をととのえるより他に方法がない現状である。また郡部の父兄の間では、寄宿舎を作ってもらいたいという意見があるが、費用の点で現在では不可能である。しかし将来は新殿運動場の側に作りたいという考えも一部にある。

本校から七百メートル、かけ足で四、五分かかれば行ける新殿運動場は授業に使用し、現運動場は一般使用の予定である。また新殿運動場には野球、ハンドボール、サッカー、庭球（軟、硬両方）、弓道、陸上の六部が使用する。このほか更衣室、シャワー室、用具室なども殿ける予定だが、水道や電気を通さなくてはならないので、まだまだ将来のことであり、運動会も当分は現在の運動場で行なわれる。

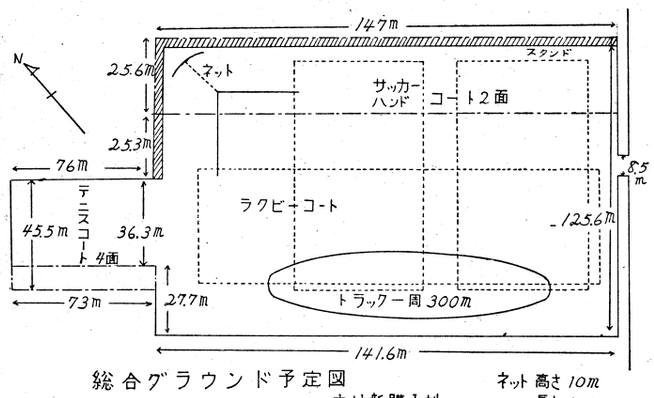
ところでこの工事に当っている東山建殿の東山瑞穂氏は、本校二十九回生である。東山氏は「高校時代ハンドボールをやっていたが、場所が狭くて不便をしましたが、今度運動場を新殿しているので喜んでいます。僕は学校に色々お世話になったので、その御礼のつもりで引受けた次第です。後輩の人達に大いに役立つように立派完成にしたいと思います」と語っていた。

運動場使用については、生徒間に「運動部の独占だ」「運動部のために金をだすのはバカバカしい」などの声があるが、これに対し松木先生は、「運動場を一般生徒に開放しないのではないが、各部の練習計画が数日前に作られるので、割当てることができない。これは現運動場や体育館の場合でも同様である。だから数日前にホーム単位などで申し込んでくれれば、できるだけ都合はつけたいと思っている。また便用後の後仕末も自主的にしてもらいたい」と語っていた。

費用、運動場便用問題などいろいろ難点があるが、何はともあれ運動場完成は待たれている。

体育館の横にきじ

今学期から体育館の横に、美しい二羽のきじが飼われている。これは、この冬休み中に、渡辺先生が、きじの卵をもらってき、その中の一個がかえったもので、この一羽が、美しい雄きじとなったわけ。雌は本校の一学生からもらったのを一緒にして、小使さんが飼っているもの。小使さんは、「目的はなく、楽しみに飼っているだけです」と語っている。



総合グラウンド予定図
－－－－内は新購入地
ネット高さ10m
長さ20m

少なくない旅行無用論
不参加の実状をアンケート

昨年秋高二は山陰・北九州方面へ七泊八日、費用約七千円の修学旅行を行なったが、不参加者が百十四名（三十七パーセント）に達し近年増える傾向にあることが問題になっている。（註三十一年二十三名、三十二年百六名）新聞部では、不参加者についてアンケートをとり実状をしらべてみた。不参加理由の問に対して五十名の解答を得たが、その内訳は次のようになっている。

経済的理由
十五名（三十パーセント）
クラブ活動のため
十一名（二十二パーセント）
価値が疑わしい
十一名（二十二パーセント）
孤独、友人関係
四名（八パーセント）
その他　九名

▽旅行の改善を積極的に望んでいる者は少なく「貯金しておけばよかった」「経済的に余裕のあるものは参加するがよかろう」という、あきらめきった考え方が多い。

▽今回はクラブ活動に従事するために旅行をとりやめた者が多く注目される。運動部のS君は「二年の二学期といえば部の中心となって働いているのだから問題が起る」と語っている。

▽旅行の価値を疑う者も少なくない。「費用と時間とを考えると〝思い出〟などが何になろう」「帰校してするのは、酒とパチンコの話だけだ。いったい何を身につけてきたのか。これでは参加者が減るのも無理はない」と、ますます旅行無用の確信を深めた者も少なくない。

▽友人関係が妨げとなる場合も無視できない。「親友が不参加だから」という同情スト型や「旅先で孤独を感じたくなかった」という者もある。

▽その他に「勉強の空白になる」というのは一名だけであった。

ソフトに大喜こび
P・F・C・博愛園慰問

最近正式の部として発足、活発に活動している郵便友の会では、部員約二十人がクリスマスの日に博愛園を慰問した。一行は市民図書館で紙しばい、市役所で幻燈機を借り、お互に持ち合った衣類、本、お菓子の贈物を持っていった。パン、ミルク、チーズ、ジャムなどの昼食を御馳走になったあと、園児六十人とドッジボールやソフトをして一日をすごした。何をしても好評だったが、とくに、ソフトはとても喜ばれたので、これからも試合を続けていくということだ。「設備もよく、園児も意外に明るかった。私達もたいへん楽しかったし、良い勉強になった」とは、みんなの感想である。また、部長の松本君は「園児達は慰安客の訪問をとても喜んでおり、もっと他の人もあのような不幸な人達に目を向け、暇な時は慰問してあげたらよいと思う」と感想をのべた。

大嶋校長と本校の歩み（中）

校舎完全復興なる

日本が戦後七年の占領にピリオドを打ち、曲りなりにも独立国となった一九五二年（昭和27年）には、第六期工事（教室優先という大嶋校長の方針により、最後までバラックだった校長室事務室、玄関など）が完了。ここに大嶋校長悲願の校舎復興はわずか七年にして達成された。

翌一九五三年には、男女共学による新学制初の卒業生を送り出したが、進学・就職ともに好調で、その後も一九五五年ごろまでは進学に関しては県下では独走の感があった。また女生徒も次第に各方面へ進出するようになった。

一方スポーツの面でも、大嶋校長のきわめて理解ある態度により年々盛んになり、野球部は一九五三年夏の全国大会で準優勝、庭球部も翌年の全日本高校で本校運動部初の全国制覇をなしとげた。

また、戦後ことに困難な私学経営をみごとなしとげた大嶋校長は一九五三年、教育功労者として文部省から表彰された。こうして「少数英才教育の土佐中」は、今や「スポーツと学問両立の土佐高」として、広くその名を知られるようになった。

一九五四年には、体育館兼用の講堂が鉄筋コンクリートの威容をほこるようになり、戦後大嶋校長のもとに一致団結して当った土佐中復興は今やなったかに見えた。しかし教育内容の充実という点から見ると、「スポーツと学問の両立」という世間の名声からは、あまりにもかけ離れた現実であった。

当時すでに、心ある父兄、先輩には、このような母校の現状に目をとめた人も多く、向陽新聞にも〝外観にふさわしい内容を〟〝開校の精神、人材の養成を〟（十七号）〝個性をのばす自由教育を〟（十九号）〝秀才教育より人間教育を〟（二十号）といった記事が見られた。また二十一号の特集「講堂完成と今後の問題」で、時の振興会副会長西山徳治氏は「今大要次のように述べている。「占領政策の民主化により、わが校についても諸君の中には自由の行き過ぎがあった。今後諸君の前途を誤まらせないように方向づける責任を痛感している」

こうした生徒の各方面にわたる自主的な活動がいっせいに開花しはじめたころ、再び逆コースへの道をあゆみ始めたのであった。すなわちこの頃から、受験指導に最活動も、一九五二年ごろから衰退化の一歩をたどった。一九五四年六月には、学校側の生徒会無視に対して、当時の二Sホームから生徒会廃止案が出されたが、委員会でわずか四票の差であやうく存続となった。

土佐高不良化時代

クラブ活動でも運動部の目ざましい活躍のかげに、一部選手の脱線行為、〝運動部くずれ〟の目にあまるふるまいが見られた。準優勝までした野球部も、その秋にはそれら部員を中心とする試験不正行為という事態が起こった。

他方文化部は、一九五二年の落成祝賀の展示会、芸能発表会を最後に、まったく研究発表の「場」を失い、予算も年々少なくなった。こうして、文化部に対する学校の態度は一言で言えば「そんなひまがあったら受験勉強せよ」というものであった。

このような状況の中にあって、個性と才能を十分に発揮しえない者。このような多数の生徒は、無気力な、平凡きわまる土佐高生から、ついには喫煙、飲酒、盗難、桃色遊戯というようなことをする不良生徒への転落の道をたどりつつあった。校内でも盗難がひんぴんと起こり、一九五三年末には「今学期ほど生徒を多く処分したことは、これまでなかった」と大嶋校長を嘆かせている。

学校当局は、不良生徒の処分に関してはまことに積極的であったが、このような事態を生み出している学校の教育的内容自体に対する反省は、ほとんど見られなかった。すなわち、いぜんとして受験準備が中心であり「人格の完成」以下の「教育十目標」がとなえられても「報恩感謝の念」を強調するばかりで、単なるお題目にすぎなかった。先生と生徒の遊離、先生に対する不信、不満の声は次第に高まり、生徒の反抗的行動を多く生んだ。

こうして、校舎完成、運動部隆盛のかげに、本校の教育は多くの重大な問題をはらんでいた。

【向陽プレスクラブ員　共同執筆】　岩谷清水、中城正堯、岡林敏真

〝名誉〟の為の受験？
ぞくぞく出る退学処分

校舎完成も間近い一九五二年五月、大嶋校長は向陽新聞十五号トップに「新生日本の出発に当って」と題するメッセージを寄せ、がいちばん危険な時期だ。野球が全国的に名をあげたり、りっぱな講堂が建ったりすると、ともすれば精神的に油断ができる。生徒諸君は自主的な態度で学校をよくしていくことだ」と、危機をズバリ指摘している。

衰退する生徒活動

毎週一時間あったクラブ活動の時間がまずなくなり、続いて生徒集会の時間が模擬試験になり、さらには〝英語に化けたホーム・ルーム〟（本紙二十二号）ということにまでなった。公文俊平氏（28回生）らを中心に「話す会」などが行われ、やや活発だった生徒会も重点が置かれ、生徒の自主的な課外活動には、一部の運動部以外、しだいに圧迫が加えられるようになった。

他方、文化部の落ちこぼれ、生徒の自主的な行為の結果は、ほとんど見られなかった。

ちょっと失礼
曾我部校長先生

数年ぶりの寒さの戻った昼下り、記者は春野町の校長先生宅を、お訪ねした。

和服姿の先生にニコニコと迎えられて、いざ質問を開始しようとすると、機先を制して記者の身元調査を始められ、しばらくは先生のペースにまきこまれ体勢をたてなおすのに一苦労。

反撃の第一は、おなじみの「飲酒」について「まあ、好きなことは好きだが弱い。務めの宴会は大嫌いだが、気の合った友達と歓談しながら、チビリチビリと飲むのは好きだ。晩酌は一本だが、三、四本なら飲めるよ」と語られた。土佐校酒豪番付では幕下の部であろうか。

「学生時代の思い出というと、やはり土佐中時代が一番楽しかったね。その時分は生徒は一クラスにせいぜい三十名、また私立といっても、今と違って学校に資金があったので、授業料はほんの申しわけ程度のものだったよ。試験も定期試験はなく、先生のご気嫌次第の抜打的なものだった。僕は下八川の出身で、土佐中に入ってから高知に出て寄宿舎に入ったが、寮生活が一番印象に残っているよ。やはり学生生活の主軸となるものは、教室・グラウンド・寄宿舎の三つだと思うね。これによって団体生活のルールを知り、先生と生徒の接触が深まるものだ。

現在建設中のグランドに寄宿舎を建てる計画があったが、資金難のため中止になった。これはしかし、ぜひ作りたいよ。

土佐を出た先生は、東京大学物理学部に進まれ、昭和三、四年ごろ寺田虎彦先生に物理を学んだそうだ。

趣味を問うと「趣味？、趣味といっても別にない。スポーツは弓道を少し。野球などを見るのは余り好きではないね。それより書道や、絵をゆっくり鑑賞する方が好きだ。校長室にかけてあった、本年度重点目標の額をはずして、生徒の作品をかけてあるが、来客の評判もよいもっと実際的だと思うね。

映画は年に二、三度見る程度で余り見たいとも思わない。文楽や歌舞伎などは見たいと思うがね」。

それからゆっくりと一同を見まわして「君達は自転車に乗ることができるかい？、僕は五、六年前大学に務めだして、はじめて乗りだしたが、今はまだ面白くてたまらないところだ」。

次に読書についてお尋ねすると「新しい書物より古典が安全でよいね。飜訳物は嫌いだ。最近読んだものは、「細雪」、「夜明け前」などだね。読書は広く深く、読むにあたっても取捨選択して読み、読後には読みっ放しでなく、感想を書いたらいいね」。

記者がアルバムを求めると、物静かな奥さんが持って来て下さった。大変仲がよいので、「先生は見合ですか、恋愛ですか」とお尋ねすると、「君達のいいように書いてくれよ」と、にが笑い。（さては恋愛かな？）

お子様は、最初八人作る構想のもとに長男を八郎としたが、二男二女で後が続かず半分の四人である。

放射能の測定研究については、「現在でも放射能は塵などにまぎって多量に検出されているので測定しているデーターを見るが、本校でも簡単な測定をしようと思って測定機を注文してあるよ父兄の間に私に数学か物理を受け持つよう要請があったが、授業がぬける心配があるためやめたよ。いそがしいからね」。

最後に校長就任についての感想や今年の抱負をお尋ねした。

「今までも同窓会の理事長をしていた関係上、新たな感想はないが、今年の四十周年記念行事には東京の同窓会などと共に同窓会、振興会で盛大に行いたい。その時には発表の機会にめぐまれない文化部のために文化祭などもやりたいと思う」という力強いお言葉をあとに、先生のお宅をおいとました。

（A・M）

校長先生御夫妻

酒の限度は三、四本
―ほしい寄宿舎―

参加者を残しての修学旅行は放っておけない問題であり、大きな課題として残されている。

また残留組は一日四時間の授業を受けたが「先生も生徒も熱が入らず、全く効果がなく、内容も英数国だけにしたら」など、効果を認める者はほとんどなかった。

ついでに盲腸も（渡辺先生）
三カ月の静養要す（安岡先生）

○…渡辺先生が一月十二日突然胃を手術され、潮江市民病院に入院中のところをお見舞した。

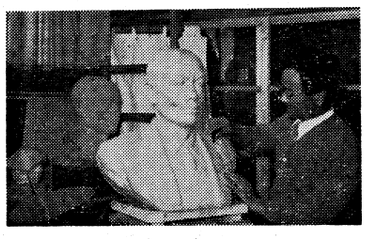
十一月末ごろから、胃の調子がおかしいので診察を求めたところ胃がんの疑いがあるというので、さっそく手術となったそうだ。しかし、幸いにも「ガン」の疑いはなかった。「手術かね。院長さんと話しながらしたよ。ついでに盲腸ものけてもらった。毎日お弁当を百匁―百二十匁と、きちんと測らせていたが、それまで腹に自信のあった私にも、近ごろちょっとすぎた。切り急ぎといわれたが、「なんでも早く治療せんといかん」ほんとに「盲腸」といい「百匁―百二十匁」といい、先生ならではのことだ。いろいろと話して下さった先生は、大手術のあとは見うけられない程お元気だった。ここの院長さんには大へんお世話になったと感謝されていた。「早く登校したい」とおっしゃるベット上の先生は、教室とはうってかわった好々爺といった感じがした。

○…また、英語担当の安岡先生も、一月十日からお休みになった。バスの中でたおれられてからのち、「脳溢血だ」「絶対安静」というウわさを耳にして、驚きながらも、さしさわりがあってはと心配しつつ、寒い風の吹く日に、山田のお宅をお訪ねしたが、先生の元気なお声をきいて安心した。ただ、運動神経をやられたほかはどこも異状はなく、左手と左足が少し不自由だそうだ。病名は「高血圧症」で、先生のはそのうちでも軽い方だそうだ。しかし、二、三カ月の静養が必要とのこと。「字もかけますし、おきられますが、こんな寒い日にかぜをひいたら大へんですから寝ています。冒気をかけたら、はやく治るそうです」と奥さんはおっしゃられた。

正月返上で製作
大嶋前校長胸像　完成は五月

昨年七月、高校委員会から本校講師横田富之介先生に依頼された故大嶋前本校校長先生の胸像は、現在完成を急がれている。

現在は原型で、実物よりやや大きいもので、粘土で作っている。完成は五月で、校門から向って右側の池の北側に東向に、巾約五尺、高さ約六尺位の御影石の台の上に青銅の胸像が置かれて池にその面影を映すのもまじかである。



横田先生談　現在は四度目の原型を作っている。この胸像を作る事は、先生の生前に先生と私との間に協議が成っていたもので、私も大変熱を入れている。先生の正義感、生徒や学問への愛情などその風格のにじみ出たものを作りたい。生徒、同窓会その他大勢の人達に満足して頂くため、とにかく正月返上で一生懸命作っている。

別れの演奏ブラバン

一月二十六日午後、本校ブラスバンドは、高知港埠頭で「別れの曲」を奏した。時ならぬ楽の音に驚く人々の中にあって、一人一心に別れを惜しむ本校英語担当平林先生の姿があった。というのは、この日平林先生の殺え子である某嬢が結婚のためメルボルンへ旅立つことになり、このことを知ったブラスバンド部が、日頃練磨の腕前を見せようと、小雨をついてのこの演奏となったわけ。

吹抜

○…三学期を迎え、校長先生は、日頃勉学に励み、運動不足になりがちな？生徒諸君を慮ってか、各クラスにバトミントン・セット一式をお贈り下さった。

○…ところが、高一のあるクラスでは、精力があり余っていたのか、バトミントンが弱過ぎたのか、一時間としないうちに早くも二本とも折ってしまった。そこで一寮志家君が奮発して鋼鉄のバトミントンを買ったとか。

（H・M）

原稿に…日誌に…英字に…
アメリカ・パーカー万年筆
謝恩一割引
十字堂　オビヤ町三丁目　TEL②4938（よくみや）

健康 皮膚病 美容 相談　冬の荒れに
つちばし薬局
高知市新京町大劇東側角　TEL②5876 9685

学生の店
同和のミルクホール
ミルク　トースト　（セントラル前）

講座用と海外放送は
オールウエーブで
土佐中高の生徒さんには特に勉強します
京町　穂積電氣商会
高知市京町　TEL②6646

入学　卒業には御来店を
正札の店　とらや
帯屋町一丁目　TEL②二五九二

土佐名物　東京への御土産に
立石蒲鉾店
本店　京町　電②六二七九

土佐高学校指定服
高知チケット
京屋
高知市京町　電②0928

土佐高指定店
洋傘↓帯屋町二丁目
元田帽子店
帽子↓帯屋町一丁目
TEL②2591

土佐高の店
凡ゆるメーカー品の揃った
白亞堂
帯屋町東宝劇場西三軒
TEL②2473